

日本企業の環境力と社会的責任投資
朝日ライフ アセットマネジメント

地球温暖化時代のCSR



2009年6月30日

サピアタワー

国連環境計画・金融イニシアティブ
特別顧問 末吉竹二郎



地球温暖化の現実

2009年6月30日

地球温暖化時代のCSR

2

IPCCの報告書は甘かった？

- ① 消える北極の海氷(BBC)
- ② In the backyard(CNN)
- ③ 環境異変(共同)

もう、“A tipping point”は避けられない？

世界、もう一つの現実

- ① 飢餓人口、10億人突破も
- ② 肥満で苦しむ、10億人
- ② \$1/1日、14億人も
- ③ 安全な水にありつけない、10億人



世界の現実と、企業の関係

地球温暖化と企業の責任

結果論として:

- ①消費者、その他の責任もあるが、
- ②やはり、企業の責任は大きい
- ③とすれば、企業は何をすべきか？

社会の課題と企業の責任

グローバル化:

- ①最もベネフィットを受けたのは誰か
- ②では、誰が負の遺産に責任を負うのか
- ③ ビジネスの対象:

Bottom Of the Pyramid,



企業にとっての、温暖化とは

温暖化はリスクだ

- ① 物理的被害のリスク
- ② 規制リスク
- ③ 評判リスク
- ④ 投融資リスク

温暖化はチャンスだ

① 新しいお金の流れが始まった

- ヴェンチャーキャピタル
- IPO、増資
- 時価総額

② GEのサクセス・ストーリー

③ A Green Recovery, A Green Economy

オバマ大統領

2009年4月22日、アースデーでの演説

「クリーンエネルギーを主導する国が
21世紀の世界経済のリーダーになる。

米国はその国にならないといけない」



CO2本位制が始まった

2009年6月30日

地球温暖化時代のCSR

12

CO2本位制の下では

- ① CO2の大幅削減
- ② 「カーボン効率」による競争
- ③ CO2基準の導入と拡大
政治から、個人の生き方まで

あたらしい価値観の誕生

- CO2をたくさん出すのは、悪いことだ
— 損をする、罰金を食らう、嫌われる

- CO2を減らすのは、良いことだ
— 得をする、褒められる、歓迎される



あたらしいルールの登場

2つの規制

① 社会規範:

- ・市民が自覚する
- ・消費者が気付く
- ・新しい社会規範の誕生

② 法による規制

- ・政府や行政が動く
- ・施行の日から変わる

社会が求める評価システム

＜消費者、投資家、社会は、
よくやっている企業と、そうでない企業
の選択の手段を求めている＞

ESG関連情報開示の


- 義務化
- 標準化
- 拡大

が進む

カーボン・フットプリントで評価

- 2009年4月、Trucost社
“Carbon Counts USA”
 - ・ 91 投信ファンド:
 - (75 = 株式、16 = SRI、1.5兆ドル)
 - ・ 最大で、38倍の格差

- 2009年6月、
“Carbon Risks & Opportunities
in the S & P 500”



日本のCSRの、本気度が試されている

金融危機からの教訓

NEWSWEEK/2009/6/24

「いま、起きているのは金融、民主主義、
そしてグローバル化の危機であり、
究極的には倫理の危機なのだ」

- ①短期主義への決別
- ②長期主義への回帰
- 倫理的価値の創造



企業経営に、倫理の楔を打ち込もう


19世紀、米国先住民の言葉

最後の木が死に、

最後の川が毒され、

最後の魚を採ったとき、

人はお金は食べられないと気付くのだ



ご清聴ありがとうございました